



八 幡 小 だ よ り

北九州市立八幡小学校
校長 田頭 麗宏

140th
anniversary

八幡小の伝統、「暗唱詩会」を開催しました！

～ 多くの方にご来校いただき ありがとうございます ～



16日の土曜日授業で、「暗唱詩会」を開催し、参観していただきました。朝の登校指導中に声をかけると、「緊張する」という返事も聞かれましたが、本番ではどの学年の子どもたちも、練習の成果を発揮してしっかり表現することができたと思います。

この「暗唱詩会」が永年に渡って続いてきた理由として、子どもたちには、『頭が元気になる』『体が元気になる』『心が元気になる』ことに価値があるから、という話をしました。15年ほど前に、齋藤孝さんの著書「声に出して読みたい日本語」がベストセラーになりましたが、そのずっと前から本校で開催されてきた「暗唱詩会」は誇るべきものだと思います。

もちろん、「暗唱詩会」を開催するだけでなく、本校では日頃から暗唱に取り組んでいます。毎週木曜日の朝の学習時間になると、「暗唱詩集 やはた」や「音読暗唱ブック ひまわり」にある詩や文を暗唱する声が、校舎中に響き渡ります。こうした伝統ある教育活動は今後も継続していきます。

この「暗唱詩会」に合わせて、自治区会長や市民センター館長、PTA会長などの皆様によって構成された「学校評議会（兼 学校関係者評価委員会）」を行いました。子どもたちの様子をはじめ、学校の教育活動について、「子どもたち



はよく挨拶をしている」「暗唱している子どもの声がよく出ていた。先生方の指導がよいと思った」「八幡小でしかできない特色ある取組に期待している」「子どもたちの安全・安心を見守ってほしい」などのご意見をいただきました。ありがとうございました。

八幡小の弱点、『家庭学習』に取り組みましょう!!

学習中に教室を回ってみると、一生懸命に「学習のめあて」を達成しようと取り組んでいる子どもたちの姿が見られます。まさに「八幡の当たり前」と言えます。

その一方、学力調査とともに実施される調査（4～6年生対象）結果によると、八幡小学校の児童は「家で、計画を立てて学習する」「家で、授業の復習をする」「1日に学校以外で60分以上勉強する」という項目で、約半数しか肯定的な回答がありませんでした。これは、昨年度末に行った「教育活動に関するアンケート」で、「進んで家庭学習に取り組んでいる」という質問項目の保護者の皆様の回答が、



「たいへんそう思う・・・21.4%」「だいたいそう思う・・・48.7%」と芳しくないことと結びつくと考えられます。

家庭学習の意義は、まず「**定着**」にあります。各ご家庭に配布している「家庭学習チャレンジハンドブック」によると、家庭学習を続けると、忘れる量を減らすことや、記憶している期間を延ばすことができるという実験結果があるそうです。

また、新しい学力のとらえ方として、「学習に対する関心や意欲」も含まれるようになりました。つまり、自分で計画を立て、関心のあることを追究する学習姿勢も重要であり、それができる場として、家庭学習が最適なのです。

本校では、今年から「家庭学習チャレンジ週間」を設定しました。ぜひ、ご家庭でも子どもたちを励まし、積極的に取り組めるようご協力をお願いします。



1年生初めてのプール学習



大きなプールに入る1年生は少し不安そうでしたが、6年生の優しいお世話もあり、安全に楽しく学習ができました。